

- ①授業における言語活動の充実
- ②特別支援教育の手法を生かした指導の工夫
- ③学校と家庭との連携による家庭学習・読書の習慣化

学力向上推進員	委員	校長：豊崎 宏	教頭：清水優樹	教務主任：岩野貴暢
教諭 宮本かおり		1学年主任：宮本かおり	2学年主任・研修主任：清水幸代	
		3学年主任：竹内佳代子	人権教育主事：吉原信作	生徒指導主事：柳澤宏

校長  
豊崎 宏

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で真面目な生徒が多く、授業態度も落ち着いている。基礎・基本的な課題に対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●学習内容を確実に習得できるまで繰り返し復習する習慣がついていない生徒が多く、学力の二極化傾向が見られる。	・生活ルールやマナー、学習規律を守るとともに、落ち着いた態度で集中して授業に取り組むことができる。 ・基礎・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組む。タブレット等を利用することで、学習に対する興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができる。 ・授業1時間の「めあて」を知り、目標をもって授業に取り組むことができる。 ・読書に親しみ、知識・教養を高めることができる。	・授業準備をしてチャイム前着席をする等、学習規律の徹底。 ・朝ドリルや自主学習等の提出物のチェックを行い、継続的に取り組めるよう支援する。 ・基礎・基本的な内容の小テストを実施し、知識の定着を図る。 ・授業での本時の「めあて」を生徒に掲示する。 ・授業をユニバーサルデザイン化し、スモールステップを意識し、生徒に「わかる」「できる」を実感させるようにする。 ・読書で得た知識・教養をアウトプットできる機会を設ける。	・チャイム着席等の規律は守れているのでこれからも続けさせたい。 ・ステップアップテストや全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着を引き続き図りたい。そのために、「めあて」を提示し学習の「見直し」をもたせることの徹底、スモールステップを大切に授業展開、AIドリルの活用などを通して達成感を味わわせるようにしたい。	・生徒たちは、休憩時間のうちに授業準備を、チャイム前着席をする等、学習規律を守ることが概ね達成できている。 ・各教科で、AIドリルや暗記ツールの活用、小テスト、質問教室の実施などを行い、生徒の学力と意欲向上のために取り組んでいる。 ・朝ドリルや読書の習慣は全体として定着しているが、家庭学習の質や確かな学力の定着は、依然として二極化傾向にある。また、読書や学習で得た知識等を表現・発表できる機会を一層推進する必要がある。	・学校全体として生徒の学力向上を図るためには、二極化傾向の軽減が必要不可欠である。引き続き、授業のスモールステップ化に取り組み、下位層の生徒も「わかる」「できる」「楽しい」だから「学ぼう」と思えるような授業を実践する。また、与えられた課題や基礎基本的な内容に真面目に取り組む生徒の良さを生かし、生徒が主体的にやってみようと思える教材・課題の研究に取り組む。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示内容や問題解決の手順が明確に示されたことに対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●資料の中から必要な情報を取り出したり、条件にそって文章にまとめたりすることに課題がある。また、答えがわかっているにもかかわらず考えを表現することが苦手な生徒が多い。	・課題解決のため、資料や情報を効果的に活用することができる。 ・自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・学習し、できるようになったことや分かったことを実際の生活にいかし、誰かのために貢献することができる。 ・新聞に興味・感心をもち、内容をまとめて文章表現ができる。	・授業における言語活動の充実を図るため、ホワイトボードや付箋、ICT等を活用し、班活動や学級全体の中で自分の考えや思いを表現できる場面を多く設ける。 ・身につけた知識・技能を活用して課題を解決するような問題の作成を研究し、授業や定期テストで出題する。 ・読解力をつけるために、新聞を活用し、心に残ることをまとめ文章表現する機会を設ける。	・ステップアップテストや全国学力・学習状況調査等の結果から、記述式の問題の正解率や回答率が依然として低い。言語活動の充実化を図るために、朝学習の時間に読解力を養成するためのドリルや読書を取り入れる。また、ホワイトボードミーティングの手法を取り入れ、生徒たちの気持ちや意見をアウトプットしやすくする。	・読書の推進やホワイトボードの活用、班学習等は随時行っており、生徒たちは真面目に取り組んでいる。しかし、少人数の中では思いや考えを発表できるが、全体ではなかなか言葉や文章にできない生徒もいる。思考力、判断力がしっかり身に付いておらず、自分の考えを深めることができなかつたり、語彙力、表現力不足で、的確に意見を述べることに抵抗があつたりするためと考えられる。	・読解力・語彙力・表現力を身に付けるために、「書く力」の育成に力を入れて取り組む。具体的には、子ども新聞の書き写しや要約、読解力養成のためのドリル活用などを検討する。 ・ホワイトボードミーティングの手法を取り入れた学習機会の増進を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り、学習にも前向きに取り組んでいる。また、「志」をもち「あたりまえ」の質を高めようとする生徒が多い。 ●与えられたことに対しては誠実に取り組むことができるが、自ら課題を見つけて主体的に取り組むことは苦手である。	・目標をもち、それを達成するための計画、実行、振り返りをし自己の成長のために主体的に努力を積み上げることができる。 ・長期的な学習の「見直し」をもち、具体的な計画を立てて自ら学ぶ意欲をもち、主体的に行動できる。	・「志」を設定し、やり抜く目標をもたせる。 ・家庭学習の定着を図るため、課題提出を徹底し、更にはその質を高めるよう、個々に指導する。 ・家庭学習強化週間を設定し、学年毎の目標時間をクリアできるように声かけをし、家庭学習の充実を支援する。 ・授業観察週間を設定し、生徒の主体的な学びを引き出すための技術や手立てを教員同士で学んだり、情報交換したりして授業力を磨き合う。 ・長期的な学習の「見直し」を明示し、主体的な学習態度を強化するための意識づけ、価値づけを継続的に行う。	・「志」の見直しを行い、長期的な学習や生活の目標の軌道修正を行うなど、ビジョンをもたせ、生徒の主体性の向上に努める。 ・1回目の授業観察週間を「授業観察週間のよりよい在り方」についての話し合いに替え、2学期に行う授業観察週間については、教員が互いにより深く学べる有意義なものとなる職員研修の場とする。	・「志」や「キャリアパスポート」を活用し、長期目標の見直しやそれに伴う短期的な目標も修正し、生徒の意欲向上に努めた。 ・職員研修の授業観察週間では、付箋等を用いた成果物を作成し、参観した授業の、生徒や教員の良さと課題・改善点についての可視化を行い、全教職員で共有し、今後の授業実践や研修に活かすことができた。	・研修で学んだ授業実践や手法を自己の教育活動に活かし、生徒たちの主体的に学ぶ意欲をより引き出す取組を学校全体で行っていく。 ・鳴門市が行う経年学力調査では、中間層の生徒の学力の伸びが課題となっているので、今後、改善に向けての取組を模索していく。

令和6年度 学力向上ロードマップ



